

# 田邊のまちなみづくりに向けて

## 1. 田邊の歴史とまちなみの特徴

(古代)

田邊は、古くは難波宮から飛鳥・住吉につながる難波大道が通っていた場所で、聖武天皇のとき(8世紀前半)に「摂津住吉郡田辺ノ郷人田辺ノ史直立」(『氏族志』)と田辺の名がみられるなど、古代より長い歴史をもっています。

また、住吉大社の神馬が逃げ出したおりに、田邊を大変気に入ったということで、神馬の厩務場所になったという神馬伝説も残っています。

(中世～近世)

中世には四天王寺南大門前より庚申堂前を過ぎ、川辺村(現 平野区長吉川辺)につながる庚申街道筋に北田邊村、同じく天王寺村より狭山を経て高野山につながる下高野街道筋に南田邊村が成立します。近世には綿や田辺大根、天王寺蕪などの名産地として農業が盛んに行われました。この頃に創建された多くの寺は、現在も地域の方々に親しまれています。



明治18年の古地図にみる街道と田邊郷・住吉郷・平野郷

(近代)

近代に入ると、北・南田邊村ほか4か村が合併し、田邊村が、その後、田邊町が誕生します。南海平野線の開業や耕地整理などの近代化が進むとともに、農地に長屋を建てた貸家経営が盛んに行われました。この頃に建てられた長屋や屋敷が今も田邊には残っています。

北田邊が農家の屋敷が建ち並ぶ農村集落の雰囲気を残す一方で、南田邊には青バス(民営バス、昭和15年市営化)が乗り入れ、官公署施設や映画館、銀行などの娯楽・業務施設が建ち並び、ダンスホールやビリヤード場などのモダンでハイカラな文化が開花しました。また、南田邊には別荘風の瀟洒な住宅地もつくられました。

第二次大戦時には模擬原子爆弾が田辺小学校の近くに投下され、大きな被害を受けるという不幸な出来事がありました。田邊の多くは戦災を免れることができました。

神馬伝説と田邊

神功皇后の伝説によると、住吉大社の御三神が三韓より持ち帰り、寵愛していた神馬“さめ”が失踪し、田邊で見つかった。その後、田邊を気に入った神馬を橋家が飼い、毎日住吉大社へ連れて通ったとされる。“さめ”の墓所跡である神馬塚跡が今も残る。また、神馬の御厩が南北田邊それぞれにあったと伝わる。



神馬塚跡



田辺大根



創建当時の法楽寺(平安時代1178年)「摂津名所図会」(大阪府立中之島図書館所蔵)



南海平野線田辺駅(大正3年開通)



国鉄(現JR)阪和線南田辺駅(昭和4年開通)



南田辺の市場附近

(現在)

田邊に残る伝統的な建物をみると、農村集落の名残を残す農家の屋敷や農地に建てられた長屋、近代になって建てられたタイル壁の店舗型町家など、農村集落から近郊住宅地へと発展した様子をうかがい知ることができます。

今日でも田邊のまちなみをそぞろ歩けば、農村集落の土の薫りを感じられる北田邊、農村集落にモダンな文化が開花した南田邊、そして神馬塚やさまざまな社寺など古代から受け継がれてきた田邊の歴史や伝説の厚みを感じられるまちなみと出会うことができます。

また、社寺の林から庭木・植木鉢まで、大小さまざまな緑がうるおいのあるまちなみを演出しています。

このような古い歴史や文化などの資源を活かして、住民が中心となって、活発なまちづくり活動が展開されているのも、今日の田邊の魅力のひとつです。



現在の下高野街道



現在の庚申街道

田邊にみられる伝統的な様式の建物



屋敷



長屋



町家

## 2. まちなみづくりのテーマ

このような田邊の歴史やまちなみの特徴を踏まえて、さらに田邊らしいまちなみとしていくために、にんやか田邊(田邊 HOPE ソーン協議会)では、田邊が目指す将来的なまちなみのイメージとして、次のようなテーマを設けました。

### 街道と歴史が織りなす にんやか田邊郷

田邊は庚申街道や下高野街道、難波大道など数多くの街道が交差し、古代から今日に至るまで、さまざまな歴史や文化を連続と織りなしてきました。このテーマには、これらの資源を活かしながら、地域の方々と一丸となって、にんやかに(田邊の方言で「にぎやかに」の意)まちなみづくりを進めていきたいという思いが込められています。

また、古くから用いられてきた「田邊郷」という言葉を使うことで、まちなみだけではなく、田邊に住む人々や田邊を訪れる人々にとっての心温まる「ふるさと」になってほしいという願いを表現しています。なお、にんやか田邊では、田邊の歴史的な背景を大切にするため、田邊を「田邊」と旧字を使って呼ぶことにしています。

にんやか田邊は、このテーマの実現に向けて、大阪市HOPEゾーン事業(詳しくは中面をご覧ください)を活用し、大阪市と連携して、まちなみの修景整備(まちなみをつくること、整えること)を進めています。みんなで力を合わせて、田邊らしいまちなみづくりに取り組んでいきましょう。

田邊のみどり

田邊には大阪府指定の天然記念物である法楽寺の楠や大阪市指定の保存樹林である法楽寺境内の樹林、山阪神社境内の樹林などがあり、田邊の長い歴史とともに歩んできた大樹が今も田邊のまちなみを見守っている。

また、屋敷の塀越しには柿や木蓮などの庭木が覗き、長屋や町家の軒先には色とりどりの花を咲かせる植木鉢が並ぶ。伝統的な建物だけでなく、新しく建てられた住宅やマンションの周りにも、住民に丹念に手入れされ、親しまれている緑が多く、四季折々の表情をみせている。



法楽寺の楠



山阪神社境内の樹林



北田邊の大楠



軒先の緑